

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当ホームが理念として掲げる「自立・信頼・笑顔」は、地域社会の一員として生活を営むことで、より一層培われるものと考え。</p>	<p>家族の意向やプライバシー保護を十分に考慮しながら、なお一層の地域資源と入居者との関わりを強めて生きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員参加のミーティングにおいて、活発な議論の末生み出された理念であり、すべてのスタッフがその理念を理解し、実現に向けて取り組んでいる。</p>	<p>日常業務の慌しさに、ともすれば頭から抜け落ちそうになりがちではあるが、業務に迷いが生じたときなど理念に立ち返るよう、管理者がミーティング等でスタッフに語りかけている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居者が地域で執り行われる行事や会合に参加したり、発行している広報に暮らしの様子を掲載することなどで、ホーム活動の理解が根付くよう努めている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近隣の、特に入居者の家族、友人はふらりと訪ねてくることも多く、歓迎して招き入れている。また地元の祭りや敬老会には毎年欠かさず参加し、入居者が古からの知人と旧交を温めるとともに、スタッフも中に加わり、思い出話などを伺っている。</p>	<p>入居者のADL状況や認知症度が年々重度化していく中で、スタッフ一人ひとりにかかる負担が増していくこととなり、地域における活動がなかなか難しい状況となってきている。今後は普及活とまでは行かないまでも、交流の機会を増やして認知症の理解を深めるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護事業については、一部のスタッフが把握するにとどまっているので、広くスタッフ間に浸透するよう、勉強会やミーティング等で取り上げて生きたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職は、他事業所と比較して極めて少なく、入居者とスタッフは家族のように馴染んでいる。</p>		<p>異動に関しては、ユニットの活性化と両ユニットすべての入居者を把握して欲しいという思いから、定期的に行っている。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修や講習の案内があれば、極力参加する方向で勤務調整を行っているほか、本年実績として行政や協力病院に依頼して、口腔ケアや関節稼働域の講義を受けている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地域の同業者で組織する協議会に入会し、情報や意見の交換を行っているほか、行政の主催するケア会議にも参加し、地域の各事業所の活動やサービスに触れ、運営の参考とさせて頂いている。</p>		<p>開設当初は、他のグループホーム見学を何度か行っていたが、こしばらくは滞っていたので、また行いたいと考えている。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者とスタッフが一緒に楽しめるようなレクリエーションや慰問を数多く催し、慰安としている。また、スタッフと折に触れてコミュニケーションをとることで、悩みや不満を察知できるよう心がけている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>役職、経験、能力を把握した上で、臆見せず、偏見も持たず、常にニュートラルな位置取りをしながら、評価が正当なものになるよう心がけることで、やる気が喚起されるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談事に対しては、本人及びその家族と事業所側とで話し合う機会を設け、それぞれの希望に沿えるサービスが提供されるよう努めている。</p>	<p>まずは、入居者、そして家族の話を傾聴することを基本としている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族には、契約時等に他の介護サービスについても簡単にではあるが説明している。興味を示した場合は、他サービスの担当者と連絡を取り、よりニーズに合致したサービスが受けられるよう連携している。</p>	<p>事業所側のアドバイスも無論必要ではあるが、まずは利用者の希望を第一にと考えている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>基本的には、入居者側の立場に立ち、あせらずに本人のペースに合わせながら、馴染んでもらえるよう努めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と入居者は、一線を引くことなく、一つの空間の中で、同化することにより、その人の価値観を理解し、喜怒哀楽の源を認知できるよう努めている。</p>	<p>地域の歴史や料理法、畑仕事など学ぶべきことは限りなくあるので、尊厳の保持やプライドの維持のためにも、教えを請うていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いくらスタッフが一生懸命支援しても、家族の絆には太刀打ちできないことをご家族に理解いただき、家族とスタッフが共同で支援することを模索している。		いろいろな事情により、在宅での介護が困難な方が多く入居されているが、家族の負担も充分考慮しながら、まずは面会を増やして頂くことからお願いをしている。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いろいろな事情を家庭内に抱えてる入居者もあり、当荘の対応もそれぞれ違ったものとなっているが、入居者と家族双方に納得できるようなサービスを提供できるよう努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じ、慣れ親しんだ人や場所に逢って頂いたり、連れ出したりして、ホーム内だけの生活にならないよう配慮している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係が悪化した場合などは、修復のための努力を粘り強く行っている。		助け合うことで完成する、共同で行う作業のようなものを増やしていきたい。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した後にも、仲の良かった入居者との再会の取次ぎをしたり、電話で話したりと関係を維持している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションをとるほかに、日常の言動、表情、反応などから観察し、得られたものから、本人本位の支援に繋げるよう努めている。</p>	<p>希望や思いを素直に吐露して頂けるような信頼関係を構築していきたい。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴や家庭環境については、なるべく詳細に調査している。それを参考にしながら、ホームでの生活の環境づくりに役立っている。</p>	<p>現在は、ほとんどの方の入居期間が長期的になっているため、これまでの当荘での暮らしぶりから良いサービスを模索し、提供していきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々のスタッフが一日の動向をつぶさに観察し、それを記録することで情報を共有して、今求めていることを割り出し支援できるよう努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に一度行っているスタッフミーティングにおいて、入居者の支援についての課題を話し合うとともに、本人、家族、医療関係者等からの意見も取り入れ、計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、あらゆる角度から視点を向け、現状のニーズに応えるものにしていきたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月単位で話し合いが行われているので、急な変化に対しても、現状に即したものになるよう柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々の日常の様子は、個人記録に記され、スタッフ間で情報が共有できている。介護計画の見直しの場でも、それが活かされている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームが多機能性を有しているかは判断の分かれるところと思うが、グループホームで行える範囲内のことであれば、可能な限り柔軟に支援することは言うまでもない。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員や行政機関と連携して、入居にこぎ着けた実績がある。</p>		<p>地域の様々な機関とより密接な関係を構築し、更に入居者の支援に役立てたい。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>勿論他事業者との連携、交流は必要であるが、基本的には本人とその家族の意向を第一義と考えており、無用に動くことはしていない。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括センターが主催するケア会議に定期的に出席し、ケアマネジメントについても、アドバイスを頂いたりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関に診察して頂いているが、本人や家族が望めば、以前からのかかりつけ医への受診を継続している例もある。		協力医療機関にはない科目の受診を必要とする場合は、協力医療機関の紹介を得て、専門医の診察を受けられる体制が出来ている。
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関には、認知症の専門医はいないが、ある程度精通したドクターがおり、アドバイスや専門医の紹介をして頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師がおり、日々健康管理を行うとともに、異常があれば直ちに協力医療機関と連携して早期の治療に努めている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常勤の看護師を配し、協力病院との間に医療連携体制を確立しており、入院中の状況も随時情報を入手し、退院後の受け入れの体制作りをしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは、重度化した場合の対応について、同意書を取り交わしているが、状態に変化があった場合には、改めて主治医や家族との協議の場を設け、結論を出している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の変化に対しては、迅速に主治医に相談し、家族に報告して、今後について話し合いをしている。		終末期においては、出来るだけ家族が望む対応が取れるよう、体制を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>担当ケアマネと十分に情報のやり取りをして、環境の変化に驚愕せぬよう、配慮している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者との対応については、慣れ、情性に陥らぬようミーティング等で話し合いを重ねている。</p>		<p>入居者、特に控えめな人、奥ゆかしい人が素直に不満を言える関係作りを築いていきたい。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定を導き出せるような、声掛けを心がけ決定するまでを急かさぬよう配慮している。</p>		<p>自己決定が出来る能力を有する方に対しては、遠慮せず主張するような環境づくりに努めたい。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースが一樣でないのと同様に、スタッフの入居者の支援におけるペースも微妙に異なるため、極力統一できるよう申し合わせたい。</p>		<p>他スタッフの声掛けや介助を入居者の反応とあわせて観察し、自らのペースとの違いを確認するよう努めたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は、本人の意向に沿って、ホーム内サービスも外部での利用の支援も選択できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士と職員とで入居者からの声の情報交換を行 い、今後のメニューの参考としている。また、準備や後 片付けは入居者と職員が一緒に行っている。		食事の場が楽しくなるよう、味付け、盛付けなどを、 もっともっと工夫していきたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは、医師からの指示、家族の意向に支 障がない限り、時間と場所を制限した上で提供してい る。おやつも、医師や栄養士と相談しながら、なるべく 本人の望むものを提供している。		嗜好をいつまでももち続けて頂けるよう、努めていき たい。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	定時での誘導のほか、尿意の頻回な人に対しては、 間隔を短縮して、声をかけ、極力失敗のないよう配慮 している。		排泄パターンの把握を、もっと精度の高いものにして いきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は、大体決まっているが、入浴するか 否かに関しては、希望に沿って柔軟に対応している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	例えば夜間寝付けない人がいれば、話を聞いたり、 安心できるような言葉をかけたりして、穏やかな気持 ちになれるように努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や洗濯たみなどその入居者の残存機能 に合わせた役割を担って頂いている。また趣味を活か しての縫い物や野菜果物の皮むきなどをお願いして、 張りのある生活になるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がある人に限ってはあがるが、お小遣い程度の少額のお金を自ら管理されている方はいる。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の入居者の希望に沿いきれてない面はあるが、毎月の行事において、体調や移動距離も勘案しながら外出を支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	商店や美容院など外出希望があれば、極力迅速に希望に沿うようにしている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙とも充分入居者の望みに叶うよう、支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来荘の際は入居者ゆっくり居室でお話しが出来るよう配慮し、お帰りの際には、入居者とともに玄関で見送ることとしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行ってはいない。ただ夜間、ベットから転落の可能性があるような不穏な状況の場合、ベット柵を追加する場合はある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を最優先に考え、現在は施錠している。		朝の散歩の時間などほんの短い時間ではあるが、時間を限定して、施錠を解く試みはしている。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	9名の入居者の今の居場所を常に頭にいれ、現在地から死角になる場所にいる方については、時々様子を見るよう心がけている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒剤等の薬品は、適切に管理されている。職員は、取り扱いについて周知されており、その有効性や危険度も認識している。		調理器具や大工道具などの刃物などは、保管は厳重にしながらも、扱い可能な入居者に対しては、その使用を薦めている。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故は勿論のこと、ヒヤリハットの場合でも報告書を作成し、学習委員会が中心となり、全スタッフに回覧し、事故防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	多数のスタッフが救急救命の講習を受講しており、またホーム内においても研修を行っているほか、対応マニュアルを作成し、万が一に供えている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、掲示しているほか、地域住民に協力を得られる体制を整えている。		開設以来、毎年消防訓練を実施しており、避難、通報、消火の訓練を行っているほか、消防署が近い位置に立地しているので、災害対策の相談にものって頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>個々の入居者におこりうるリスクについて、ミーティングで話し合い、未然に防ぐための方策を検討している。</p>		<p>記録や申し送りなどで個々の状態の変化が情報として得られており、それに伴う新たなリスクに対しても、申し送りで周知させている。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎朝行うバイタルチェックやその際の体調の聞き取りから、変化に対して早期の気づきが出来ている。またその際のスタッフから看護師へ、看護師から医療機関への連携もスムーズに運んでいる。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>個々の利用者の台帳に使用している薬の効能や副作用が記されたものを綴り、内容が理解できている。薬のセットの差には、セットされた薬を別の職員が確認するという形をとっており、誤薬を防いでいる。</p>		<p>介助の必要としない入居者についても、しっかり飲み込むまで、見守るよう努めている。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>まずは便秘の原因を作らないよう、運動や水分補給を促すなど、便秘予防に努めている。</p>		<p>不幸にして、便秘傾向に陥った場合には、主治医に相談し、指示を仰いでいる。</p>
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>今年、ホーム内で講師を招いて口腔ケアの勉強会を開き、手の離せないわずかな職員を除いて参加し、その大切さや方法を理解している。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>医師からの指示や看護師の把握している状態から、管理栄養士が適切にメニューに反映させ、入居者本人にも納得して頂いた上で、摂取量も決めている。</p>		<p>水分については、三度の食事のほか、10時3時や風呂上りに摂取して頂くよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の対応マニュアルが作成されており、その内容はスタッフに理解され、疑いを持った場合の連絡システムも確立している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルを作成しているほか、調理器具の定期的な殺菌消毒、食品の賞味期限確認、保管場所の清潔保持などに取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を飾ったり、プランターを置いたりして、雰囲気明るくしようと努めている。近隣の方が気軽に立ち寄れるよう、玄関前の庭は、あまり仰々しく飾らないように考えている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフが季節の花を持ち寄ったり、入居者が散歩の際摘んできた野の花をテーブルに飾るなどして華やかいた気分を作るよう努めている。		広い壁を利用して、朝みんなで歌う歌の歌詞が書かれた張り紙にその詩にあった絵をちぎり絵にしたり、季節感を感じさせる絵を掲示して潤いのある日常を送れるよう配慮している。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチが置かれた中庭で外気を浴びながら、気の合う仲間とお話をしたり、炬燵の置かれた畳座敷で本を読んだり、横になったりと寛げるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

絶えずコミュニケーションをとることを主として考え、そこから得られる思いや望み、不満などから次につながるサービスの向上を目指している。また潤いのある日常を過ごして頂くために、ショッピング、お祭り見物、お花見等の外出や歌や踊りの慰問を数多く招いたり、日常の余暇活動にも力を入れている。入居が長期になるに従い、どうしてもADLの低下や認知症の重度化は避けられないが、可能な限りこの姿勢は保って生きたいと思う。